

2021年5月7日

石森孝志八王子市長 殿
木内基容子副市長 殿
健康部長
新型コロナウイルスワクチン接種体制確保課長

新型コロナウイルスワクチン接種体制についての要望

八王子市議会議員 若尾喜美絵

日頃の市政に対する取り組み、そして、新型コロナウイルス感染症対策へのご尽力に感謝します。

感染症拡大の予防策として、ワクチン接種が始まりました。高齢者の方は、ワクチン接種に期待をしている方が大変多い状況があり、4月の第1回目のワクチン接種では、申込みが殺到する状況がありました。市に多くの市民の方から意見や苦情が届いたと思いますが、私もワクチン接種の申し込む体制についてのご意見や苦情を多数頂きました。

こうした声を受け、高齢者の方に、ストレスのかからない方法で、申込みができるよう要望しました。年齢区分を細かくして、申込み者の母数を小さくして受け付け体制をとること。電話をかけられない人や電話をかけ続けることができない方への方策として、ハガキでの申込みができるよう、提案させていただきましたが、5月の接種申込み体制では、年齢を75歳以上、65歳以上と、2区分の年齢区分が設けたものの、結果的には要望を反映していただくことはできませんでした。

第2回目の申込み以降は、ワクチンの供給量が増え、ワクチンの申込みを受け付けられる人数は大幅に増えるので、大丈夫との回答をいただきました。しかし、5月の申込みでも、アクセス数が多い中、申込みの電話を一日に30回以上かけてもつながらなかった方。また、朝から電話を100回以上かけてもつながらないので、インターネットでの申込みも同時に試みたものの、インターネットでもつながらず、最終的に、申込みの受付が完了するのに、11時間もかかった方などいらっしや、ストレスが大きすぎる。なぜもっと高齢者に負担のかからない方法で申込みできる体制をつくってくれないのかと、市民の方から苦情と強いお怒りの声を多数、頂いております。

また、高齢者の方のご家族からも、家族で協力して、ワクチン接種の申込みをしているが、電話を何度もかけ続けたり、インターネットで繰り返し申込みを試みるというのは、労力が大きすぎる。椅子取りゲームで椅子を取るために、取れるまで、何度も、ゲームに参加しなければ、申込みができないようなやり方は、高齢者の負担が大きすぎ、家族としても大きな負担を感じる。このようなやり方は絶対に変えてほしいとの強いお声を届いています。

また、耳がよく聞こえない高齢者や、言葉がうまく話せない方、障害のある方への配慮はどのようにされているのでしょうか。

インターネットが使えたり、長時間電話をかけられる元気な方。ご家族が多い方など、ご本人の能力が高かったり、ご家族の応援が得られやすい、条件の良い方が、申込みしやすい八王子のシステムは、弱肉強食のようで、良くないという声もたくさん頂いています。

今一度、市民の声を聞き、コロナの感染リスクが高い高齢者の方をいかにお守りできるか、そのためには、どのようなシステムづくりが望ましいのか所管全体でよくご協議いただき、改善策をとっていただきたいと改めて文書にて要望させていただきます。

市民の方は、コロナ禍での強いストレスにさらされながら、生活されています。ストレスを感じることで、交感神経が優位になり、免疫力の低下につながります。市民の方をお守りするためにも、負担とストレスを回避できるシステムにしていきたいと思います。

下記の要望をします。ご回答ください。

—記—

1. ワクチンの申込みは、その日に申込みできる年齢区分を、たとえば、90歳以上、85歳以上、80歳以上など、年齢区分を細かくし、年齢が高い方から、申込みを受け付けるシステムにしてください。

年齢区分を細かくすれば、その日に申込みをする対象となる人の母数を減らすことができます。電話やインターネットでアクセスが集中する状況を改善し、市民の方の負担軽減をしてください。一般的に年齢が高い高齢者の方が感染リスクが高いことから、受付は、年齢が高い方を優先していくシステムにしてください。市民の方からもリスクの高い高齢の方が優先されるシステムであれば、納得できるとの声があります。

2. ハガキでの申込みの受付など、インターネットや電話での申込みができない方、障害のある方への合理的配慮をしたシステムをつくってください。

耳が聞こえない方、耳が遠くなった方、脳梗塞などの後遺症で失語症になってしまった方、何度も電話をかけるのが辛い方など、弱い立場の方を意識し、配慮あるシステムを作ってください。

3. 耳が聞こえない方など、障害のある方は、コールセンターにも電話がかけられません。最終的にどこに相談し、どのような形で申込みをしたらいいのか。お示してください。

4. ワクチンの種類とその特性や副反応について、市民に対し、十分な情報提供をし、ワク

チンの副反応を十分知った上で、ワクチン接種を判断することができるよう、また、接種にあたっては、自分でワクチンの種類を選べるようにしてください。

今のところ、高齢者のワクチンの副反応は強くない傾向があるとの見解が示されています。しかし、アメリカでの研究では、ワクチン接種後、女性に血栓ができやすい傾向があるのではないかとの研究があります。日本でも、先行的に接種が行われている医療関係者の中で、若い世代や女性に副反応が強く出やすい傾向があるのではないかとされており。アメリカでは、米国食品医薬局（FDA）と疾病予防管理センター（CDC）はジョンソン・エンド・ジョンソン製の新型コロナウイルスワクチンの使用について、一時停止勧告をし、4月23日には勧告は解除される状況がありました。

また、デンマーク政府は、英オックスフォード大学／アストラゼネカ製の新型コロナウイルスワクチンの使用を完全に中止すると発表しました。まれに起きる血栓症を懸念したためです。国民を守るために、国として、アストラゼネカ製のワクチンの安全性など副反応と安全性について検討し、使用を続けるのか判断すべきだと思いますが、まずは、市として、ワクチンの種類によって、特性や副反応が違うことなどしっかりと市民に情報提供し、市民がしっかり情報を把握した上で、ワクチン接種の判断ができるよう、さらに、接種する際は、自分でワクチンの種類を選んで接種できるような体制をつくってください。

5. 高齢者の介護施設でのワクチン接種体制について、市の方針をしっかりと示し、介護事業者への説明や情報発信をしっかりと行ってください。また、議会や市民に対しても、市が取り組んでいることをわかりやすくタイムリーに、しっかりと情報提供、情報発信してください。

介護施設では、ご本人の持病や体調の状況を見ながら、医療関係者やご家族との相談の中で、ワクチンを接種するのか、決めていくことが大切です。安心してワクチン接種ができる体制になるよう、市として、介護施設に対し、周知を行ってください。

行政のご苦勞は理解しておりますが、ワクチンの接種体制は、市民の命と健康に関わる問題であり、市民がストレスを感じない制度づくりは急務です。また、行政が、障害のある方や弱者への配慮ある制度をいかにつくっていくのか問われています。市民は、弱い立場の方への配慮ある行政であってほしいと強く望んでいます。

ワクチン接種体制の課題への対応やその取り組み姿勢は、今回だけの問題ではなく、今後の行政のあり方にもつながっていくことです。要望内容をご検討いただき、ワクチンの接種体制や情報発信の改善をしていただけるよう、そして、今後とも、弱い立場の方に対し、配慮ある行政の制度づくりをしていただくよう、強く要望します。

以上